

# 日本の東西文化の分岐点 伊吹山

伊吹山は、言葉や味覚といった日本人の生活文化の分岐点にもなっています。

言葉は伊吹山を堺に東側では西濃弁と言われる岐阜・愛知など東海圏の言葉になり、反対側の西の滋賀県側では、いわゆる関西弁のイントネーションが混じった言葉になってきます。

また、「味覚」については東西の味覚の境界線というものがあ、伊吹山のふもと「関ヶ原」と、飛騨山脈・親不知を結ぶ線で東西が分かれま。

「東の濃い口、西の薄口」と言われている通り、特に出汁文化に東西の違いが出ていて、カツオを中心とした濃い口の関東味と昆布を中心とした薄口の関西味は、ここ伊吹山で東西に分かれています。和風カップめんの味や、コンビニのおでんにつゆ、新幹線の名古屋駅のホームにある「きしめん屋」さん味が上りと下りで違うのも有名な話ですね。

その他、お雑煮のお餅の形(東の焼いた角餅・西の焼かない丸餅)、おにぎりの形(東の三角、西の俵)、うなぎのさばき方(東は背開き、西は腹開き)などにも違いが。

食べ物以外では、エスカレーターでの立ち位置(関東は右空け、関西は左空け)や、一番多い苗字の違い(関東NO1の「鈴木」さんも関西ではベスト10圏外(関西NO1は「田中」さん)置の大きさ(京間6置は江戸間6置に比べ約1置分ほど大きい)、電気の周波数、マクドナルドをマック(関東)と呼ぶか、マクド(関西)と呼ぶか?など、生活文化に関する東西の違いは多岐にわたります。

## 伊吹山の岐阜県側のふもと「関ヶ原」

伊勢神宮・熊野本宮大社・伊弉諾神宮・元伊勢 外宮豊受大神社・伊吹山を線で結ぶと、地図上に綺麗な『五芒星』が浮かび上がる。近畿の主要神社を結ぶと『五芒星』が浮かぶこの五芒星は、中心に奈良の「平城京」があり、平城京を守る結界と言われている日本のレイラインと言われています。さらに、伊吹山の東には「富士山」、西には「出雲大社」があり、この3点は一直線で繋がっています。伊吹山は底知れぬパワーを感じさせてくれる「霊峰」なのです。

